

# 徳川家康

## 西尾

ゆかりの地



東照大権現像 [長岡寺蔵(非公開)]

三英傑  
信長 秀吉 家康

## 鷹狩りに 西尾へ来ていた!!

- 1565(永禄 8) 年 **家康**が鷹狩りの途中、鶴ヶ池に立ち寄り富永伴五郎忠康を引見、仕官を勧めたが、忠康は固辞した。そこで家康は寺を建てる土地と寺領を安堵した。忠康はこの地に妙高山妙満寺を建てたという。(現在は大給町にある)
- 1574(天正 2) 年間11月 **信長**の吉良荘での鷹狩りを待ち、**家康**が歓待の意を伝える。
- 1576(天正 4) 年 12月 **信長**が吉良荘で鷹狩り、その際に井戸の水を使用。
- 1577(天正 5) 年 12月 **信長**が吉良荘で鷹狩り
- 1578(天正 6) 年 1月 **信長**が吉良荘で鷹狩り
- 10月 **信長**が西尾城に御成、酒井忠次が接待。
- 1579(天正 7) 年 1月 **家康**が吉良荘で鷹狩り
- 1580(天正 8) 年 1月 **家康**が吉良荘で鷹狩り
- 1583(天正11) 年 1月 **家康**が吉良荘で鷹狩り
- 1587(天正15) 年 12月 **家康**が吉良荘で鷹狩り
- 1588(天正18) 年 12月 **家康**が吉良荘で鷹狩り
- 1589(天正19) 年 11月 **秀吉**が吉良荘で鷹狩り
- 1591(天正21) 年 11月 **秀吉**が吉良荘で鷹狩り
- 1593(文禄 2) 年 11月 **秀吉**が吉良荘で鷹狩り
- 1608(慶長13) 年 家康の九男、義直が名古屋城主になるため、備前松山(尾張国知多半島)を巡視し帰路、**家康**が吉良荘で鷹狩りをしたのち西尾城で5~7日宿泊、本多康俊が御膳を献ず。
- 家康から時服白銀など拝領する。
- 1612(慶長17) 年 1月 **家康**が吉良荘で鷹狩り
- 1615(慶長20) 年 1月 **家康**が吉良荘で鷹狩り



西尾城 本丸井戸



養国寺の東照宮にある徳川家康の肖像画

鷹狩りは、弓取川の流域でされていたと推定されます。また、吉良荘とは現在の西尾市の大部分を指します。

応神天皇とともに徳川家康を祀っている。家達揮毫の扁額がある。

### 「矢作(新)川」の開削と 幻の大河「弓取川」の閉塞

現在の西尾市を流れる矢作川が開削された人工の川であることはあまり知られていません。かつて江戸時代初頭まで、矢作川の本流は今の矢作古川でした。

1605年徳川家康の命により、米津清右衛門が安城市藤井町から西尾市米津町まで碧海台地を開削し、今の矢作川になります。(矢作川=開削域)

また、小焼野町から分流して一色町開正に至る「弓取川」という大河が流れていました。のちの1646年矢作古川の支流「弓取川」は閉塞され、その流域は埋め立てられ、その存在は幻となりました。

当時の海岸線

岡崎に生まれて三河に覇を唱え、ついに天下統一を果たした徳川家康。生誕地に隣接する西尾市には、若き日の家康が抵抗勢力に鍛えられ、働き盛りの家康が鷹狩りで心身を鍛えた史跡もあります。マップを片手に巡ると、家康の覇業に西尾も一役買っていたことが、ご理解いただけることでしょう。



家康初陣像 養寿寺蔵



家康に登用され、名奉行として活躍した板倉勝重ら板倉家の菩提寺。



三河一向一揆で家康に背き父とともに流浪。



### 当時流れていた 弓取川 (黄線)



弓取川堤防跡 (今川町白山神社の近く)

家康が立ち寄ったと伝わっており、家康に仕えた侍原勘解由の墓がある。



三河代官 鈴木八右衛門重直の屋敷跡 高倉神社(平口町)



三河代官 鳥山牛之助の末裔 吾妻町にある醸造元はと屋

平口村の浄念寺の開基祐念住職は、三河一向一揆では、家康と敵対する門徒側に連名している。1636年に代官に任じられた鈴木八右衛門隆政が年少のため、補佐したのが鳥山牛之助。この牛之助は、祐念住職の孫婿、鈴木家とは親戚。

三河代官 鳥山牛之助の菩提寺。醸造元はと屋(吾妻町)は鳥山牛之助の末裔。江戸時代中期に商人に転じ、西尾藩御用達を勤め、味噌醤油の醸造を始めたのは1861年。以後、繁栄を続け現在に至る。



津平岩から東条城と藤波畷の合戦場を眺めた写真。手前の家並みと遠方の山並みのあいだ全体が合戦場。右側手前の小高い山が東条城跡。

### 年表

### 家康 西尾でどうした？

|      |          |                                                                                  |
|------|----------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 1526 | 4月20日    | 松平清康の妹で吉良義安の妻と伝わる矢田姫が死去。                                                         |
| 1529 |          | 松平清康が小島城を攻略。米津城主・米津勝政が先陣を務める。ハツ面城主・荒川義弘も降伏。                                      |
| 1533 | 11月 5日   | 江原城主・江原丹波守が若宮八幡宮を創建。                                                             |
| 1534 |          | 寺津城主・大河内信貞が金剛院を中興して菩提寺に。                                                         |
| 1535 | 12月 5日   | 松平清康が尾張守山陣中で横死。従臣の大河内氏が遺骸を故郷の長縄村観音院近くに仮葬したと伝わる。                                  |
| 1535 |          | 清康の死後、東条吉良持広(清康の妹婿)が遺児・広忠を伊勢神戸に避難させたと言われる。                                       |
| 1536 | 9月16日    | 伊勢を出た広忠が、富永忠康の居城・室城に入る。小島城を修復して出城とする。                                            |
| 1537 | 12月      | 松平広忠が元服 吉良持広の一字を授与。                                                              |
| 1542 | 12月26日   | <b>松平広忠の子・竹千代(徳川家康)が誕生。</b> (1543年説も)                                            |
| 1549 | 3月 6日    | 松平広忠が死去。                                                                         |
|      | 12月27日   | 竹千代を人質として今川義元のもとへ送る際、江原丹波守の子・孫三郎が従ったと伝わる。                                        |
| 1555 | 5月 6日までに | <b>松平竹千代が元服し、元信と名乗る。</b>                                                         |
| 1558 |          | <b>松平元信が元康に改名。</b>                                                               |
| 1560 | 5月 5日    | 織田方の兵火で実相寺(上町)、浄教寺(平坂町)、蓮光寺(鎌谷町)、大槌律寺(伊藤町)を焼く。(異説あり)                             |
|      | 5月19日    | 桶狭間の戦いで今川方の江原丹波守政秀(忠次)が戦死。大高城から岡崎城に入ろうとした松平元康が発病。今川義元の首を東向寺(駒場町)に葬ったと伝わる。        |
| 1561 | 4月15日    | 善明堤(鉦ヶ淵)の戦い。松平方の深溝城主・松平好景が、東条城主・吉良義昭と戦って、敗走の末に戦死。貝吹町出身の板倉勝重の父・好重も戦死。(1556年説もある。) |
|      | 5月       | ハツ面城主・荒川義弘が今川方から松平方に寝返り、酒井政家(正親)と共に今川方の西尾城を攻略? 義弘に元康の異母妹・市場姫が嫁ぐ?                 |
|      | 6月27日まで  | に東条城の吉良義昭攻撃のため、松平元康方の松井忠次が津平砦、本多広孝が小牧砦を築く。                                       |
|      | 9月13日    | 松平元康の家臣本多広孝が東条城を攻める。(藤波畷の戦い) 富永伴五郎が戦死して吉良義昭が降伏。                                  |
| 1562 | 4月13日    | 松平元康が松井忠次を東条城の城代とし、松平亀千代後見の地位を保証。                                                |
|      | 4月18日    | 松平元康が平坂の無量寿寺に制札を与える。                                                             |
| 1563 | 1月 1日    | 加藤嘉明が上永良村で誕生。                                                                    |

|      |         |                                                                                                      |
|------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1563 | 7月 ごろ 秋 | <b>松平元康が家康に改名。</b><br>吉良義昭が三河一向一揆に乗じて挙兵し、松平家康から離反して一時東条城を奪還したと伝わる。                                   |
|      | 10月24日  | 松井忠次が東条城を攻撃。                                                                                         |
|      | 11月20日  | 小笠原重広が松平家康に従い、寺部城で三河一向一揆と対峙。一族の小笠原原光は欠城を守る。                                                          |
|      | 閏 12月   | 松平家康が松井忠次に東条城を与える。                                                                                   |
| 1564 | 2月 8日   | 松平家康が刈谷水野氏の加勢を得て、2千余の軍勢で、西尾城の酒井政家に兵糧米を送る。その帰路、家康と水野氏はハツ面城の荒川義弘を攻める。(伝承)                              |
| 1564 | 春       | 松平家康が浄土真宗門徒と和睦。吉良義昭・荒川義弘が没落。2月28日に家康が東条城を総攻撃したとも。以後、一揆側の浅井東城、ハツ面城、東条城、寺津城は廃城に。                       |
| 1566 | 12月29日  | <b>松平家康が徳川に改姓して三河守に。</b>                                                                             |
| 1572 | 12月22日  | 徳川家康が遠江三方ヶ原で武田信玄と戦って敗れる。寺津養国寺の檀那7人、幡豆安泰寺の檀那2人が戦死。                                                    |
| 1575 | 5月21日   | 長篠の戦い。<br>三河一向一揆で一揆側に与して敗れ、小島城を去った伊奈忠次が徳川家康の嫡男・信康に属して戦功。                                             |
| 1579 | 8月 4日   | 徳川家康が嫡子・信康を大浜に追放。<br>家康は翌日、西尾城で陣を取る。康全寺で宿泊。                                                          |
| 1582 | 6月      | 徳川家康が「吉良山満全寺」を「西尾山康全寺」に改称。<br>本能寺の変。徳川家康の伊賀越えで、西尾城主酒井重忠が軍船を出して迎え、大浜から岡崎に帰還させる。平坂に入港して無量寿寺で休息したとの伝承も。 |
| 1585 | 2月 5日   | 吉良荘の城(西尾城)を大改修。                                                                                      |
|      | 9月26日   | 徳川家康が吉良荘見回りのため西尾を訪問。(西尾城改修状況の検分)                                                                     |
|      | 11月22日  | 徳川家康が西尾を訪れる。(西尾城改修完成確認)                                                                              |
|      | 12月16日  | 徳川家康が京都からの帰途で西尾に立ち寄り。                                                                                |
| 1589 | 8月      | 徳川家康の関東移封で、幡豆小笠原氏が上総国周東郡内に領地替え。                                                                      |
| 1590 |         | 豊田秀吉、伏見城で死去。                                                                                         |
| 1598 | 6月20日   | 徳川家康が京都伏見から江戸へ向かう途次、佐久島で宿泊。                                                                          |
| 1601 | 2月      | 本多康俊が2万石で西尾城主に。(西尾藩成立)                                                                               |
|      | 9月      | 長岡寺が板倉家の菩提寺に。                                                                                        |
| 1605 | 7月22日   | 徳川家康の命で矢作川の新川開削が始まる。                                                                                 |
| 1610 |         | 徳川家康側近の松平(大河内)正綱が幡豆郡小牧村など3千石を拝領。                                                                     |
| 1612 | 3月      | 小笠原重権之丞とその弟がキリスト教に帰依したとして改易。                                                                         |
| 1616 | 4月17日   | <b>徳川家康が死去。</b>                                                                                      |



1600 年家康が上杉征伐で江戸に向かう際、立ち寄ったと伝わる

崇運寺

佐久島

天文三河動乱  
く祖父清康・父広忠の時代く



1 源空院 (西浅井町)

松平清康(徳川家康の祖父)の弟・康孝が1523年に菩提寺として創建した浄土宗寺院です。シダレザクラの名所として知られ、墓地に康孝の墓があります。康孝は源空院の約400m南東にあった浅井西城(市史跡「土豪屋敷跡土塁」)の城主でした。



2 室城跡 (室町)

松平清康が家臣に暗殺されると、嫡男の広忠(家康の父)が一族によって岡崎城を追われます。広忠は東条城主の東条吉良持広の保護を受け、持広の一字を授かって広忠と名乗り、東条吉良氏の重臣・富永氏の居城だった室城に一時かくまわれました。この保護がなければ、家康は生まれていなかったかもしれません。



3 松平清康 仮葬地 (長縄町)

江戸時代の1795年に藪の中から「清康公」と刻まれた五輪塔が発掘されたことから、暗殺された松平清康の遺骸を大河内氏が運び出し、大河内氏ゆかりの長縄でひそかに仮葬したと伝わっています。観音寺本堂裏手の北側に石碑が建てられています。仮葬の真偽は不明です。



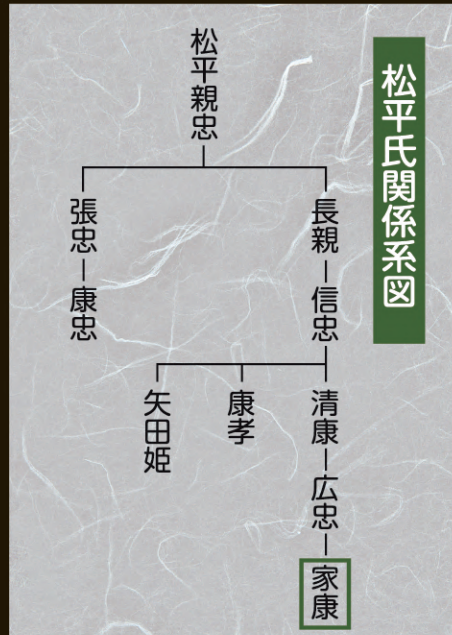
4 養寿寺 (下矢田町)

毎年3月の最終土日に行われる祭り「矢田のおかげん」で知られる浄土宗寺院で、徳川家康の大伯母「矢田姫」の墓と伝わる石塔があります。矢田姫については家康の大伯母説のほか、1世代上の「ひい伯母説」、家康と無関係の「二条家出身説」があり、確かなことは分かっていません。



5 矢田地蔵塚 (上矢田町)

安城城の戦い(1540年)に駆け付けて戦死した松平康忠の墓と伝わっています。現在は矢田公園内にあり、滑り台が設置されて子どもたちの歓声が響いています。近くにある桂岩寺は、康忠が父を供養するために再興したと、同寺の縁起に記されています。



桶狭間の戦い  
くその時西尾はく



6 実相寺 (上町)

足利(吉良)満氏が1271年に創建した吉良氏の菩提寺です。その開山の聖一国師(円爾)は、禅文化としてこの地に茶をもたらしといわれており、釈迦堂など多数の文化財を所蔵しています。1560年前後に織田方の兵火で焼失したと伝わります。



7 大槌律寺 (伊藤町)

1560年織田信長は、桶狭間の戦いで今川義元を打ち破りました。その前後、織田勢が西尾にも侵攻し実相寺を焼失させたと伝わります。その時、実相寺の観音堂のみは焼け残り、この観音堂が後に大槌律寺となったとの言い伝えがあります。



8 今川氏発祥の地 (今川町)

吉良・今川の祖 足利長氏は、吉良荘を譲り受けました。吉良荘内の今川の地は、長氏の次男国氏に譲られ、この地名から今川を名乗ることになります。桶狭間の戦いで今川義元が討ち死にすると、今川の支配下から離れた家康が、三河統一を進めていきます。



9 妙喜寺・江原城跡 (江原町)

桶狭間の戦いの際、今川氏に従軍し討ち死にしたとされる江原丹羽守政秀(忠次)と、その代々の墓があると言われる曹洞宗の寺です。1469～1587年頃、小笠原氏が江原に住んで江原姓を名乗ったとされています。この一族代々の居城がこの江原城とされています。



10 東向寺 (駒場町)

1560年5月、桶狭間の戦いで討ち死にした今川義元。その首は須賀口に晒し物にされました。今川方の家臣岡部元信は敗戦後も抵抗を続けましたが、信長に城を明け渡す条件に、主君の首との交換を申し出ます。信長はその忠義に応じ条件を受け入れました。義元の首は、その当時の今川家一族が仕職を務めていたこの寺に埋葬されたと伝わります。



11 願成寺 (巨海町)

吉良長氏創建の寺とされています。桶狭間の合戦後に織田勢によって上町の実相寺と同時期に焼かれたと伝わります。釈迦如来坐像が本尊として祀られています。この地域まで織田勢の影響があったとすれば、いかに西尾が当時の勢力緩衝地帯にあったかを物語ることになります。

三河統一戦のはじまり  
く松平元康の西尾平定く



12 鎧ヶ淵古戦場 (吉良町岡山)

桶狭間の戦いの後、松平元康(徳川家康)は今川氏と決別し吉良氏と戦端を開きます。東条城主吉良義昭は深溝松平氏の中島城(岡崎市)を攻撃し失敗します。退却する吉良勢は敵を須美川下流の鎧が淵に誘い込み逆に大攻撃を与えます。退却する松平勢は善明辻で大將松平好景や多くの武将を失い敗走します。(異説あり)



13 西尾城跡 (錦城町)

1561年5月、元康は吉良方のハツ面城主荒川義弘を寝返らせ、妹市場姫を嫁がせます。義弘と元康家臣酒井政家(正親)は今川方の西尾城を攻めます。城主牧野成定は善戦しますが、城主牧野成定は善戦しますが、代わって酒井政家が西尾城の城主となり東条城は孤立します。



14 安泰寺 (西幡豆町)

欠城(西幡豆町)城主小笠原重長が1513年に小笠原氏の菩提寺として創建しました。この寺に「家康鑑かけの松」という伝承があります。記録等はなく実際に家康が当地に来たかどうか不明で、寺宝として家康愛蔵品と伝わる椰子実水飲等があり、家康との関わりを否定できません。



15 寺部城跡 (寺部町)

寺部城は三河湾をのぞむ台地上に建つ16世紀の城で水陸交通の要地にあります。元康の三河統一戦開始の頃寺部城主小笠原広重と支城の欠城主広光は吉良氏側でした。吉良氏敗北後、小笠原氏は本多忠勝の仲介により元康の家臣となります。両城は家康の関東移封後廃城となります。



16 走り付け古戦場 (東幡豆町)

この戦いは1561年の藤波礫の戦いのころと推定されます。走り付けは寺部のすぐ東の海岸にあり、松平軍が敗走したのは小笠原軍の鉄砲の音に驚いたからといわれます。走り付けは谷であって銃声が増幅される。大音響に驚いたか火縄銃の数を誤解したか松平勢は退却しました。



東照権現像【法応寺旧蔵(非公開)】



17 瀬門神社 (吉良町瀬戸)

創建は不明ですが、源頼朝が東大寺再建時に上洛する折に参拝し、社殿を修理したと伝わります。1561年、松平元康が東条城を攻める時に戦勝祈願をしました。1657年、幕府赤坂陣屋の三河代官島山牛之助が再建しました。境内に隣接する西林寺には、南極大陸探検の白瀬蘆の墓所もあります。



18 藤波礫古戦場 (吉良町瀬戸)

1561年、松平元康は東条城の吉良義昭を攻めるため小牧砦に本多広孝、津平峯、友国砦に松井忠次、糟塚砦に小笠原三九郎長滋を配します。東条城の西、藤波礫で戦いはじまります。東条吉良側の家臣富永伴五郎忠元は、東条城から出て戦うも討ち死にし、吉良義昭は降伏します。



19 東条城跡 (吉良町鞍馬)

古くは承久の乱の後、吉良荘地頭になった足利義氏(時義)が当時の矢作川の東に城を構えたのがはじまりで、以後東条吉良氏の居城になったと伝わります。桶狭間の戦いの後、松平元康は東条城の吉良義昭を攻め、東条吉良は降伏し、以後松平氏が入りますのがちに廃城となります。



20 伴五郎地蔵 (吉良町寺嶋)

松平元康と吉良義昭の戦いで、室城主で東条吉良の家臣富永伴五郎忠元が東条城の西、藤波礫の戦いで戦死します。時に25歳。後世地元の人々が、その地の墳墓が荒れているのを悲し、伴五郎地蔵として祀りました。戦死した富永一族の墓所はその地から西へ300mの大通院にあります。



21 小牧陣屋跡 (吉良町小牧)

1561年、松平元康が東条城を攻めた時の本陣(砦)跡で、本多広孝が守りました。のちに寺津城主大河内の所領になりました。松平(大河内)正綱は元久綱とともに家康に仕え、三代正久は1703年上総国大喜藩主になり、石高2万石のうち約半分は小牧陣屋で支配していました。



22 赤羽根城跡 (一色町赤羽)

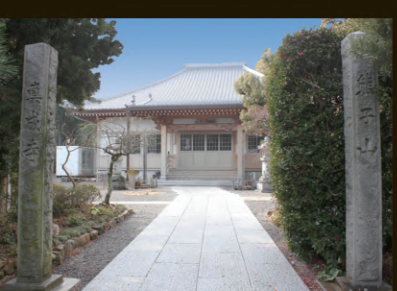
赤羽根城は今川氏の勢力下、東条城の吉良義昭配下の高橋氏の守城と伝わります。桶狭間の戦い後、松平元康の家臣、西尾城の酒井政家(正親)に攻められ落城しました。赤羽根城の位置、規模についてははっきりしていませんが、その跡地には瑞雲寺と赤羽別院親宣寺、近年には県立一色高等学校が建っています。

三河一向一揆の戦い  
く松平家康の試練く



23 上永良神社 (上永良町)

戦国武将、加藤左馬助嘉明の生誕碑があります。1563年正月元日生まれ、父は三之丞嘉明。この年の三河一向一揆に一揆側として家康に背き、敗れたのは諸国を流浪。関ヶ原の戦いでは家康に味方し、戦後20万石伊予松山藩主、のちに43万石陸奥会津藩主になっています。



24 真成寺 (ハツ面町)

ハツ面城主荒川甲斐守義弘が1562年に創建したと伝わっています。義弘は家康の異母妹市場姫を妻にむかえましたが、三河一向一揆で東条城主吉良義昭が西尾地域の盟主になると、義昭と和し、吉良家再興を願って一揆側として戦いましたが敗れました。



25 無量寿寺 (平坂町)

三河一向一揆では西尾地域の中心的なお寺。本證寺、上宮寺、勝鬘寺の三河三か寺を中心に、本願寺直属の浄土寺、慈光寺、願照寺、無量寿寺の四か寺を加えた七か寺が、本願寺の血縁者を住職とする本宗寺を支え、一揆側の中心寺院でした。



26 寺津城跡 (寺津町)

現在は瑞松寺の境内になっています。大河内氏の居城で、1504～1521年に築城されたといわれています。東条城主吉良氏の家臣であり、三河一向一揆では吉良方として参加し、敗れた秀綱が最後の城主でした。江戸時代に、知恵伊豆といわれた松平伊豆守信綱の先祖の地です。



27 不退院 (上道目記町)

ハツ面城主荒川甲斐守義弘と妻の市場姫の墓があります。この地域は豊かな米の産地で、戦国期にたびたび地権争いが起きていました。現在は浄土宗寺院ですが、三河一向一揆では、一揆側として戦ったとの伝承もあります。

■一揆側  
荒川城跡……荒川義弘  
寺津城跡……大河内秀綱  
無量寿寺  
浅井東城跡……大津土左衛門  
小島城跡……高部屋鋒之助  
江原城跡……江原孫三郎  
矢田砦……矢田次郎  
高木砦……高木仁右衛門  
東条城跡……吉良義昭  
真成寺、厳西寺、花岳寺  
上永良神社、不退院

■家康側  
岡山城跡……久留善四郎(初めは一揆側)  
寺部城跡……小笠原広重  
欠城跡……小笠原広光  
西尾城跡……酒井政家(正親)

天下取りへの足跡  
く徳川家康の覇業く



28 西尾城跡 (錦城町)

1560年の桶狭間の戦いを機に、今川氏の支配から独立した松平元康(徳川家康)が三河統一に乗り出し、61年に西尾城を落とすと、家臣の酒井政家(正親)が入城しました。85年には家康による大改修が行われ、防御設備「丸馬出」などが構築されました。



29 御剣八幡宮 (錦城町)

1600年、会津征討に向かった家康が軍を返して江戸を出発し、石田三成討伐に向かう途次で岡崎に宿泊した際、使者を御剣八幡宮に送り、厳切と伝わる宝剣のある社殿を、敵の西に向けて祈請させ、その神通力が家康に関ヶ原での勝利をもたらした、との伝承があります。



30 康全寺 (満全町)

御剣八幡宮を取り巻く6つの堂(六坊)のうち2堂を合わせて、室町時代の14世紀末に西条城主・吉良満貞の妻が、吉良山満全寺として復興しました。1579年に家康がこの寺に宿泊し、家康の一字を拝領して西尾山康全寺に改めたと伝わります。現在は曹洞宗寺院です。



31 家康鷹野陣跡 (行用町)

福泉寺(浄土宗西山深草派)の境内に、「三河太守源家康鷹野陣址」「御遺跡 東照家康公御休息の石橋」などと書かれた石柱があります。寺伝によると、時の住職が「三河守家康に助力したため、近辺に寺領を受けた」とされ、家康がこの地で鷹狩りをした際の本陣を福泉寺に置いたと伝わっています。



32 寺津八幡社 (寺津町)

鎌倉時代初期に創建されました。家康が1608年に本殿を再興し、将軍家の守護神として仰ぎました。32年には応神天皇と共に、家康が祭神として合祀されました。扁額「懸社八幡社」は徳川宗家16代家達の手書です。境内には「大河内氏発跡地」の碑が建っています。



33 妙善寺 (東幡豆町)

浄土宗西山深草派の寺院で、「かぼちゃ寺」として親しまれています。小笠原権之丞(ごんのじょう)の母と伝わる「妙善尼」の位牌があります。権之丞は幡豆小笠原氏の一族とされますが、実は家康の子だったとする史料もあります。大坂夏の陣で家康と敵対して討ち死にしました。